

会 議 録

会議名 (審議会等名)		平成 27 年度第 3 回相模原市総合計画審議会				
事務局 (担当課)		企画政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 3 (直通)				
開催日時		平成 27 年 7 月 24 日 (金) 13 時 30 分 ~ 16 時 00 分				
開催場所		消防指令センター 4 階講堂				
出席者	委員	9 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	8 人 (企画政策課長他 7 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	2 名
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		開会 1 議事 (1) 総合計画進行管理について (2) 総合戦略の策定方針について (3) その他 閉会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

(委員の発言、 会長の発言、 事務局の発言)

開会 小林企画政策課長

1 議事

吉田会長の進行により議事に入った。

(1) 総合計画進行管理について

本日の議事 (1) 「総合計画進行管理について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料1「施策進行管理シート・改善工程表」から資料5「平成27年度総合計画審議会部会日程表」までの説明が行われた。

議事1について質問があればお願いしたい。

全体的に言えることだが、たとえば、施策1「地域福祉の推進」の1次評価の説明の中に「達成率が若干下回った。」という表現がある。

基本的に施策は、A評価を目指すものであり指標を達成していないにもかかわらずこのような表現を使うことは、市民に対して「達成しなくても良い」という誤解を招く。表記の仕方を工夫する必要がある。

2次評価等のスケジュールはどのようになっているか。

1件あたりの時間配分は、1施策30分を予定している。スケジュールは資料5のとおりである。8月に第1部会と第2部会を各3回ずつ開催する予定である。

今年度から始めて委員になられた方は、これから2次評価をするに当たり、実際にどのようなことを聞けばよいのか疑問に思うものと推測される。

そこで資料4-1「2次評価・改善工程表モニタリングの着眼点」を見ていただきたい。

2次評価に当たっては、「ア」から「オ」に記載されている視点に基づき、審議していただきたい。

これらの視点は、これまでの審議会では指摘事項となった点が基準となっている。たとえば、「ア 成果指標の実績にかかる結果の分析が適切であるか。」につい

ては、これまで、結果の分析が適切でなかったケースが多く見られたため、着眼点として掲載したものである。

これらの着眼点を2次評価の施策に置き換えて考えていただければと思っている。

公募市民委員の方には、市民の生活感覚から「おかしい」と端的に感じてもらって意見を言っていただければよいと思う。皆様の意見がよい刺激となって施策の改善につながることを望んでいる。

たとえば、施策1の地域で住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合の「感じる」とはどういうことか。

成果指標には、二つの目的がある。

1番目の目的は、成果目標を設定して、その達成状況を市民に公表することで説明責任を果たしていこうというものである。

2番目の目的は、ただ単に数値を分析するだけでなく、それに伴う政策の改善、政策の質を上げることである。

感じる市民の割合は、1番目の目的に該当する。

市民アンケート結果を成果指標に設定してこの数値を段階的に引き上げていくことを成果として設定したものである。他の施策もあわせ92の成果指標を設定しているが、実際には、この指標だけで担当部署の努力した結果が見えにくいという課題があった。

そこで、相模原市では、本年度から各施策にサブ指標を設定してさまざまな角度から市の努力の度合いが見えるようにしている。

成果指標を設定して評価する動きは、この後の議題でもある地方版総合戦略においても同様であり、今後、自治体における施策の評価は、このような形が標準となってくると思う。

施策1の成果指標である「地域で住民が互いに支えあっていると感じる市民の割合」において、支えあいを求めない人もいるのではないか。

総合計画では、「住民がともに地域で支えあっている。」姿をめざす姿として定めている。今後、単身世帯が増えていく中において、政策としては互いに支えあう視点はなくてはならないものであり望ましい方向と考えている。

指標については、アンケート等の聞き取りの仕方にもよるが、果たして「めざ

す姿」に合致しているのか、市民感覚にあっているのかという点についても確認が必要である。

指標の根拠についてもヒアリングを通じて明確にする必要があると考えている。

指標については、一つの視点である。ただ、ほかにもっとよい指標がないかなど、常に審議会で確認していく作業が必要である。

各施策ともめざす姿にむけて様々な取組を展開している。このため、ひとつの指標だけですべての成果を表すことは難しい。このため、サブ指標を設けて多角的多面的な評価ができるようにしたものであるが、今後も審議会のご意見をいただきながら指標をより良いものにしていきたいと考えている。

市民アンケートは、どのような方に実施しているのか。

無作為で年齢、地区などバランスを見ながら選定している。

「子育て中の人々がどのように感じているか」など、クロス集計で見られるとよい。

項目によっては、クロス集計で抽出できるものもあるので検討したい。

(2) 総合戦略の策定方針について

議事(2)「総合戦略の策定方針について」事務局から説明願いたい。

事務局より資料6「相模原市の人口の現状と将来展望」及び資料7-2「相模原市総合戦略重点プロジェクト」までの説明が行われた。

日本は、世界でも例を見ない突出した少子高齢化が進行することが予想されており、相模原市でも同様に厳しい状況が予想されている。

この総合戦略をきっかけにこれらの課題に対応する基盤づくりをしていくことになる。質問があればお願いしたい。

当審議会の役割は何か。

市が作成した総合戦略の原案に対して審議会として意見を付することになる。総合戦略における当審議会の役割は、委員の皆様の視点で、原案に対する意見や提案をしていくことで、総合戦略をより良いものにしていくことである。

相模原市の債務についてであるが、市民の感覚だと、人口減少に伴い、生産年齢人口が減少すると債務が返せなくなるのではないかという心配がある。

相模原市は、財政面において、実質公債費比率が政令指定都市で一番低いなど、今のところ健全だと言える。

ただし、今後、団塊世代が後期高齢者になった場合は、扶助費の増加など心配な面は多い。このことから、これまで相模原市が取り組んできた市債発行の上限設定等の取組は、引き続き実施する必要があると考える。

コンパクトシティの考え方があるが、実際に実現するのは非常に難しいと考える。

たとえば、公共施設の整理統合の話があるが、高齢者が増えていくと、公民館などの集える場所は重要になる。このように二面性があり、施策と逆行する面もある。

津久井地域は、市内においても人口減少、高齢化が著しい地域と認識している。このことから、今までどおり施設等を作り続けることは難しいが、既存の公共施設を有効活用するなど、コミュニティの核としての役割は保たなければならないと考えている。

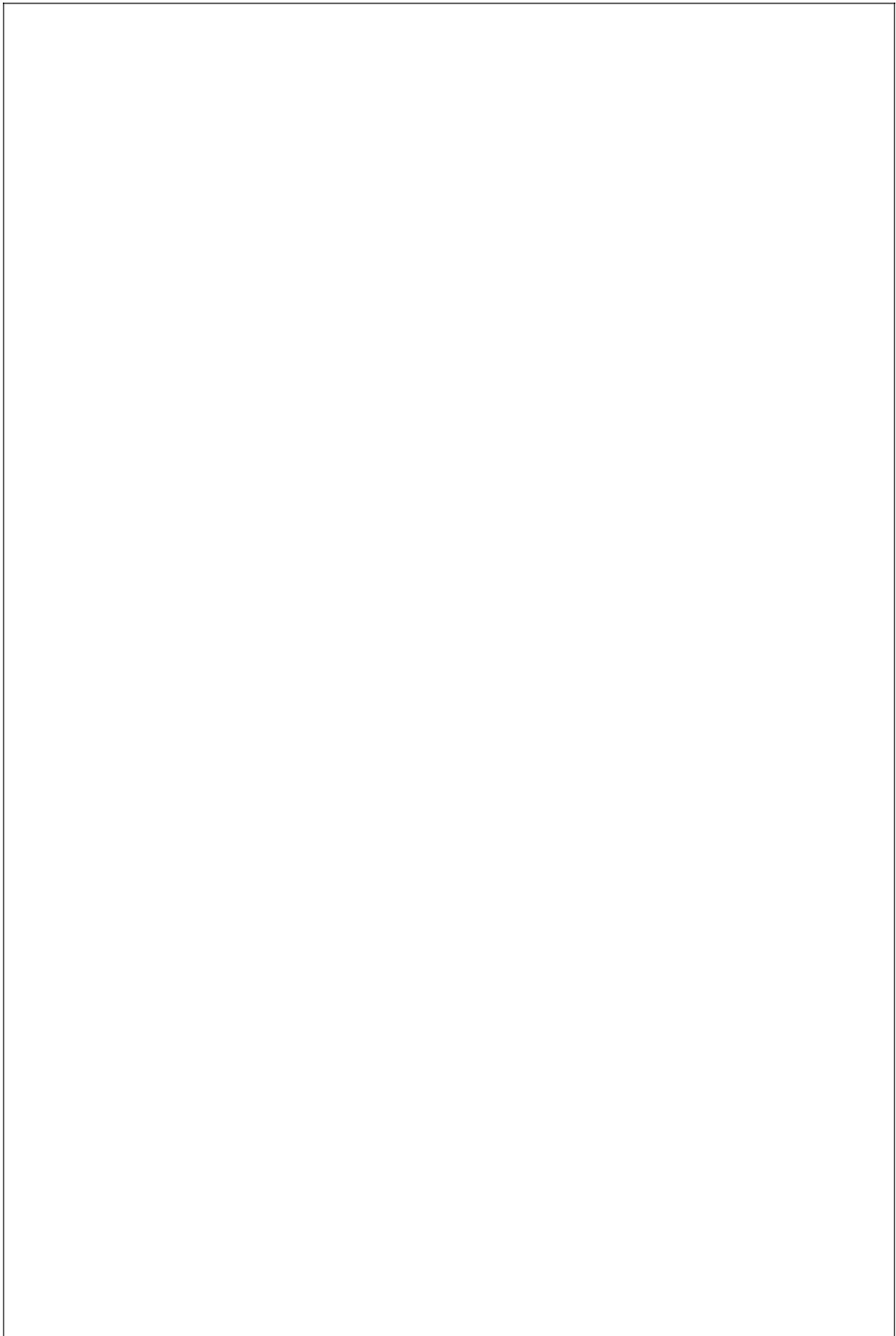
総合戦略の策定にあたっては、縦割りではなく、横断的な考えのもと知恵を出さなければならない。

また、今後は、量的拡大ではなく質の向上が重要になってくることを踏まえ、原案の作成にあたっては、相模原の個性、独自性を考慮した特長ある施策を考えていただきたい。

他に質問等は無いか。無ければ本日の議事は終了とする。

閉会 小林企画政策課長

以 上



相模原市総合計画審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	荒井 容子	法政大学社会学部社会学科		出席
2	岡本 真佐子	青山学院大学地球社会共生学部 地球社会共生学科		出席
3	金森 剛	相模女子大学人間社会学部 社会マネジメント学科	副会長	出席
4	佐藤 慶一	公募		出席
5	鈴木 敏彦	和泉短期大学児童福祉学科		欠席
6	長野 基	首都大学東京都市環境学部建築都市 市コース・大学院都市環境科学研究科都市システム科学域		出席
7	林 恵子	公募		出席
8	宮 久美子	公募		出席
9	三好 上次	公募		出席
10	吉田 民雄	総合政策プランナー	会 長	出席